

農大会館 20 周年・慰霊祭を開催



8月25日、サンパウロ市内の農大会館（常盤松会館）で恒例の物故OBと関係者を追悼する慰霊祭と南米懇親会が開催され、ブラジル全国、パラグアイ、そして日本から54名のOBとその家族、亡くなったOBの婦人方が出席した。今年は新会館が落成してから20年目に当たり、そのお祝いも兼ねたものとなった。

慰霊祭は戸国達夫・総務理事が司会、徳久俊行・第一副会長の開会のあいさつではじまり、日伯寺の櫻井聡祐・主任開教師の追悼法要・読経、焼香が厳かに執り行われた。大森麗裕会長は「こうして集まって近況報告などをしながら、交流ができることをうれしく思います。ブラジル農大会としては、横のつながりをもっと強くし、世界のOBと連携して若い世代の仕事や情報収集に役立つ会にしていきたい」と挨拶した。

来賓の挨拶では、パラグアイ農大会の堤広行会長の代理として出席した横田好古理事（故横田善則校友の子息、バイオビジネス留学）が、イグアス移住地に「移住記念碑」（題字「パラグアイに夢をかけた農大生」）を建立したことを報告した。「一世の出番は終わり、2世へのパトタッチということになりま

すね。服部さん、合田さんに喜んでいただけるかなと思っています。式典は一〇月ごろになるでしょう」との堤会長のメッセージを披露した。

続いて出席がかなわなかった江口文陽学長・理事長、萬歳章・校友会会長、狩野平左衛門・拓友会会長、村藤修・アルゼンチン支部会長、ブラジル在住のブラジル校友の須貝吉彦氏（拓殖5期）のメッセージが披露された。

江口学長は「地球規模の気候変動による環境変化、自然災害の増加など、人類を脅かす課題は山積しています。さらに新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大によって国際交流は一時停滞しましたが、『総合農学』を牽引する大学として世界と協調しながら国際化の推進にも努めてまいります。」と大学の方針を述べるとともに、「2024年1月には10年ぶり70回目の箱根駅伝にも出場しました。農友会硬式野球部（世田谷キャンパス）は、東都大学野球リーグにおいて三一年ぶりに一部に復帰することが決定し、2024年秋のリーグ戦で戦います。」とスポーツ面での活躍も披露した。

萬歳校友会会長は農大会館の20周年を祝福するとともに、



「会館は南米で活躍する卒業生のためだけでなく、東京農大の先生や学生が研究や実習を南米で行う際の拠点機能をも果たしています。会館開設以来、東京農大関係者の拠り所となるよう、多大なるご尽力をされてこられたブラジル支部の諸先輩方に、深甚の敬意を表するものであります。」とブラジルでの会館の存在の意義を強調した。

狩野拓友会会長は「皆様が移住をされて以降、ブラジルで眠る農大卒業生の方々を始め、現在もブラジルで活躍される先輩方の弛まぬご努力により、ブラジル農大会及びブラジル日系社会が着実に発展を遂げてきましたこと、心より敬意を表します。」と会の活動を労った。

村藤アルゼンチン支部会長は「南米ブラジルに所縁の先生方、その遺志を継いだ同窓の思いを風化させることのないよう先達の霊、故人の遺徳を偲び慰めることで、ブラジルに架けた希望と夢を後世に伝え後進の団結力を深めるためにも、毎年この慰霊祭が開かれますことに喜びを感じます」と慰霊祭の意義を述べ、「これからの支部継続に関わる後継者問題を抱えておりますが、いつまでも各国支部の指針となっていきたい」とブラジル農大会へ期待するメッセージを送った。

須貝校友のメッセージは自身の経歴を含む長文のものだったために、概略が司会から説明、希望者にはメールで送付することが伝えられた。

その後、昨年、グアルーリョス墓地から移転させた慰霊碑の前で記念撮影、続いて懇親会に移ったが、懇親会の前に夫婦での訪日旅行の帰途に参加したローライマ州在住の外館雅弘校友のエールで学歌の斉唱が行われた。乾杯の音頭はアチバイア在住の上原真地校友がとった。

懇親会には仕出しの料理と早朝フェイラ（露天市）で仕入れた刺身が用意され、また校友提供のフルーツ、日本酒、ウイスキーなどもあって参会者みんな旧交を温め、例年のように和やかな楽しい懇親会となった。大森会長は、慰霊祭を振り返り、「亡くなられた諸先輩の奥様達、その娘さん達も集まり、50名を超す集まりとなり、親睦会でも楽しい一時が過ぎました。」と慰霊祭を振り返った。

恒例の慰霊祭を終えて

大森麗裕会長

今年も異常気象だ、日本は地震だと言っている間に今年も8月が来て、恒例の慰霊祭も無事終わりました。日本、パラグアイ、国内ではベレン、パラナ、ローライマから校友、故校友の奥様方などが多数集まっていつものように旧交を温め、楽しい時間を過ごすことができ、農大会というのはいいなとしみじみ思いました。

9月10日には移住研究部の学生10名（男子3人、女子7人）が移住者の世代の変遷、食事をはじめ日本文化の伝承状況などの調査を目的にやって来ました。コロナパンデミック以来久々の学生の来泊です。農大会では手分けしてアテンド、実習生たちの安全に注意を払うとともに、各地でのヒアリングのサポートを行いました。

10月には当会の行事の一つとして今年から復活させた、先輩を訪ねるピクニックがあります。今回はアチバイアを予定してます。

段々年末に近づいてきてますが、皆様今年も最後までお元気で有意義な時を過ごせることを祈っています。それでは忘年会でまた会いましょう。



ピニャール天野図書館にピクニック

5月18、19日にサンミゲルアルカンジョの天野図書館で、役員会を兼ねてピクニックを行いました。同図書館のあるコロニア・ピニャールは、サンパウロ市内から180キロ離れています。大森麗裕夫妻、福井真司夫妻、茂手木康成、矢野亨夫妻、高木雄一郎、徳久俊行、南クリスチーナ校友が参加しました。

午前中は、ソロカバ市内にお住いの拓殖一期の石川準二先輩を訪問、体調を崩されていたが、自力で歩行できるまでに回復されていてみんなを喜ばせました。会で日本向けに作ったビデオを見てもらうなどして歓談しましたが、帰りには夜の懇談会で飲んでくれと12年物のシーバスリーガルをゴッツアンになりました。これは後から聞いた話ですが、我々が帰ってから故高松浩二先輩の奥様が息子のセルジオさんを伴ってお見舞いされたとのこと。あらためて農大校友の絆の強さを感じさせられました。



翌日は朝食後、ルーチンの役員会を行い、帰途に高木農場を訪問しました。干し柿を作る乾燥機などの詳しい説明を受け、みんなで勉強しました。校友のそれぞれの仕事を見るのは楽しいものです。

農大会では以前行われていたピクニックを復活させ、今回が第1回目となりました。高齢などの理由で、なかなかサンパウロまで出てこれない校友を訪問して、交流をはかっていこうというものです。次回は10月20日に日帰りでアチバイアを予定しています。ぜひみなさんも参加して楽しいピクニックにしましょう。

会場を提供していただいた天野図書館のオーバーの天野鉄人先輩は残念ながら不在でしたが、素晴らしい場を提供していただいたことに感謝いたします。(徳久記)



石川先輩宅を10時半に出発、ピラールドスールで高木校友と合流、市内のスーパーマーケットで夕食の食材を購入し、昼食もすませました。いったん図書館に向かい、荷物を置いた後、故南満先輩の農場を訪れました。奥様の夏子さん、息子さんの勇一さん、孫のゼツリオ君に迎えていただき、生産の話などを約1時間にわたってお聞きして交流できました。

それから図書館に戻って小休止、それから待ちに待った夕食の準備にかかりました。南クリスチーナ校友は、この時点から参加、大いに料理を手伝ってくれました。大森校友が釣ったイカの刺身、サンパウロから持ってきたアンショバ、シュラスコその他持ち寄りのご馳走の準備をビールを飲みながら楽しくみんなでやって、懇談夕食会が始まりました。ワイン、ビール、石川先輩寄贈のウィスキーをチャンポンにして、農大会のことなども含めて楽しくたくさん語り合いました。残念ながらオーナーの天野鉄人先輩は不在でしたが、素晴らしい場を提供していただいたことに感謝いたします。



海外移住研究部の学生が来伯

サンパウロ近郊とトメアスで調査活動

9月9日、日本出発、30日帰国というスケジュールで、農大の海外移住研究部の10名が、ブラジル合宿で来伯した。移住研部員が団体でブラジルに来るのは2018年以来である。学生は生産環境工学科（水越智規）、国際農業開発学科（木下栞、大須賀絢音、吉原優、木村開、湯口ひかる、中村瑠智安、梅木岳人）、食料環境経済学科（中島優香子）、農芸化学科（森田小百合）で女子が7名、男子が3名という割合だった。学年は1年から3年まで幅広かった。

出発に先立ち、農大会のリモート役員会で篠原卓部長と学生から合宿の目的の説明や協力の依頼があり、それに会では、各地のOBに協力を依頼、手分けをしてアテンドの準備を行って受け入れ態勢を整え、学生の到着を待った。

今回の合宿のテーマは移住者の移住動機や日系社会での世代交代、そして食生活を中心とする生活実態、アグロフォレストリーなど多岐に渡っていたが、学生たちはあらかじめ質問内容などを連絡してきており、会ではそれに応じて訪問先のアレンジ、内容についてコメントするなどなどの準備を行った。

10日の到着初日はさっそくサンパウロ市内在住のOBで、軽く歓迎会を行ったが、学生たちは長旅の疲れも見せず、元気に自己紹介を行い、すぐに雰囲気溶け込んでさっそくインタビューなどを積極的に始める部員もいて頼もしさを感じさせた。またコロナの影響で部員が2名にまで減り廃部寸前になったこと、またそれから盛り返して現在30名以上の部員が在籍していることなど知らされ、OBを驚かせた。

翌日からの生産者やOBへのヒアリングは3地域に分かれて行われ、それぞれ地元のアチバイアは染谷肇校友、モジダスクルーゼスは大森麗裕、ピニャールは徳久俊行がフルアテンドで対応した。

サンパウロ近郊での調査を終えた一行は、15日にアマゾンのベレンに向かい、トメアス移住地に入った。ベレンでは山中正二、佐藤卓司校友が出迎えた。トメアス訪問は大西康宏、鈴木勝宣エルネスト校友が受け入れ準備を整えて対応した。トメアス組合、トメアス文協の資料館を訪問、そして千葉三郎先生、杉野忠夫先生のお墓のあるトメアス墓地をお参りした。



21日にはサンパウロに戻り、28日までサンパウロに滞在したが、その間、移民資料館やリベルダーデなどを見学、姉妹校であるサンパウロ大学農学部、イグアスの滝（岡田フェリッペ校友同行）サントス海岸も訪問して充実した実習期間を過ごした。サントス海岸ではあいにく曇り模様だったが、コーヒー博物館の訪問のほか、ビーチで海に入ることもできて思い出となったと思われる。最終日の28日には壮行会と報告会を兼ねた昼食会が開かれたが、最後に移住研の応援エールと大根踊りを立派に披露し、OBたちを感動させた。日本の学生に元気がなくなったなどよく聞かすが、今回の移住研の学生はみんな元気よく、積極的にいろんなことを見たり聞いたりしたいという姿勢が見られ、また自分の考えもはっきりと述べる事ができ、「将来が楽しみだ」との声が多く聞かれた。



伯国東京農大会会報 68号

発行： Associação Tokyo-Nodai do Brasil

Rua Dona Cesaria Fagundes, 235 - Saúde - SP

発行日：2024年9月30日

編集： 福井真司

